

1. 評価結果概要票

作成日 平成20年12月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	3670300296
法人名	有限会社 プレタ
事業所名	グループホーム ファミリーヒルズ
所在地	徳島県小松島市新見町東山下101-4 (電話) 088-532-6517

評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成20年11月6日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤:12人、非常勤:2人、常勤換算:カモミール 6.5人 ラベンダー 6.5人	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有() 円		無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	- 円	昼食	- 円
	夕食	- 円	おやつ	- 円
	または1日当たり 1,200 円			

(4) 利用者の概要(平成20年10月1日現在)

利用者人数	17 名	男性	8 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	2 名		
要介護3	10 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	71 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ライフクリニック
---------	----------

徳島県 グループホームファミリーヒルズ

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は、田園地帯の小高い丘の中腹に位置したのどかな環境にある。職員は、利用者や家族とのコミュニケーションを大切にし、希望や要望にそったサービスの提供に努めている。また、手打ちうどんやそば、新鮮な海・山の幸を取り入れ、美味しく食事が楽しめるよう様々な工夫が凝らされている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価での主な課題である「家族等への報告」、「職員を育てる取り組み」、「同業者との交流を通じた向上」については改善されている。「運営推進会議を活かした取り組み」、「鍵をかけないケアの実践」については改善されていない。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者・職員は評価の意義を理解して会議で協議し、自己評価に取り組み、サービスの質の向上へ繋げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は、年間に2回開催し、利用者や家族、行政担当者、近隣住民が参加している。会議ではグループホームの運営状況やサービス内容などの報告を行っている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>意見や苦情はコミュニケーションを大事にして利用者に聞いたり、家族の来訪時や電話連絡時に聞いたりして把握している。また、利用者や家族からでた意見や苦情はありのまま受け止めて会議で検討し、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の方と散歩時などに積極的にコミュニケーションを図り、ホームへの理解や利用者との交流を深めている。また、お祭りに利用者全員が参加するなどして地域社会との交流に努めている。</p>

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの意義を盛り込んだ独自の理念を作成している。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は職員に周知してミーティングや会議、日常業務などにおいてその都度確認し、サービスの向上に反映させている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の方とは散歩時などに積極的にコミュニケーションを図り、ホームへの理解や利用者との交流を深めている。また、お祭りに利用者全員が参加するなどして地域社会との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者・職員は評価の意義を理解して会議で協議し、自己評価に取り組み、サービスの質の向上へ繋げている。前回評価での摘み残した課題がある。	○	前回評価での課題の改善に取り組まれない。
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、利用者や家族、行政担当者、近隣住民が参加している。開催頻度は年間に2回であり、2か月に1回の開催とはなっていない。また会議では、グループホームの運営状況やサービス内容などの報告のみにとどまっている。	○	運営推進会議は、2か月に1回開催されたい。また会議では、参加者から地域の情報を得たり、意見交換を行うなどの取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員が毎月来訪したり、市担当者が来た際に情報交換を行うなどしている。また、管理者等が利用状況や事故報告を行う仕組みがあるなど、連携を密にしながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	行事や日常生活の様子を撮った写真をホーム内に掲示するなど、家族が来訪した際にわかりやすく伝える工夫をしている。また電話連絡時や来訪時のコミュニケーションを大切に、利用者の些細な変化や暮らしぶり、金銭管理状況などについての説明・報告を行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や苦情はコミュニケーションを大事にして利用者に聞いたり、家族の来訪時や電話連絡時に聞いたりして把握している。また、利用者や家族からでた意見や苦情はありのまま受け止めて会議で検討し、改善に向けて取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安の軽減のために、職員の異動の際には十分な引き継ぎ期間を設けるなどしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修には職員の希望や各種資格取得のため、積極的に参加できるよう支援している。研修終了後は、事業所内での伝達研修をその都度開催し、全体の資質向上に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣のグループホームと行事を手伝い合ったり、意見交換するなど連携を図り、共にサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始前には、職員が自宅を訪問して顔馴染みの関係を作った後、利用者・家族にグループホームに来訪していただき、場の雰囲気を感じてもらおうなどしている。また、体験利用などを通してさらに安心・納得した上で利用してもらえるよう工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者から地域の歴史や風習、漬物の作り方を教わったり、うどんやそばと一緒に打つなどして共に過ごし支え合う関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は常に利用者の話を傾聴し、希望や思いの把握に努めている。また何気ない言動や表情から真意を確認し、利用者一人ひとりの意向や希望の実現に向けて全職員が取り組んでいる。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員は利用者の生活歴や趣味、生き甲斐の把握に努め、月1回の会議において関係者間で話し合い介護計画を作成している。計画書には本人・家族の確認印がある。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者の状態に応じた計画の見直しを行っている。会議では利用者の希望や意見、家族の要望等も盛り込んだ具体的な計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制が整備され、利用者の状況や家族の要望等に応じて通院の援助などを行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望に応じて、かかりつけ医や他の医療機関への受診支援が行われている。また、かかりつけ医との情報交換や連携も密に図られている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人・家族の意向を確認し、重度化した場合や終末期における方針について十分話し合わせ、関係者間で共有されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の個人情報の管理には十分配慮し、人目に触れない場所に保管されている。また利用者の誇りやプライバシー保護については会議などで話し合わせ、トイレ誘導時の言葉かけや支援などはさりげなく行われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者や家族の意向にそって、自宅での生活習慣をふまえた援助を行っている。また散歩や買い物への参加など1日のスケジュールは利用者と相談して決めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	うどんやそばを手打ちするなど、利用者と職員が共に食事を楽しめるよう支援している。また鮮度のよい天然食材を利用したり、旬の食材を取り入れるなど、味付けや彩りにも工夫を凝らしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者一人ひとりの生活習慣や意向を大切に、毎日入浴できる体制をとっている。また清潔保持のため、随時、必要に応じた入浴支援を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除、食後の後片付けなど、利用者一人ひとりが楽しめるよう日常生活の中で生活歴も反映された支援が行われている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の意向に応じて、病院や市役所、銀行、自宅周辺などへの外出を積極的に支援している。また利用者の気分や天候に応じて散歩など運動も兼ねて日常的に外出している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は鍵をかけないケアへの大切さを十分に理解しているが、建物の構造上、玄関の見通しが良くないために事故への配慮から玄関は施錠されている。	○	見守りのあり方を検討し、日中は鍵をかけないケアの実現に取り組まれない。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時のマニュアルを作成し、年に2回、消防署・警察署と連携して訓練を行っている。また市からは地域の災害時避難場所に指定されている。事業所には水や食料などが備蓄されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量はその都度記録し、職員間で情報を共有している。また協力医療機関の医師や栄養士からアドバイスを受け、バランスのとれた栄養が摂取できるように支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	事業所内はすべてバリアフリーとなっていて、広々とした空間が確保されている。リビングには大きく見やすいテレビや座り心地のよいソファが配置され、壁には季節感が感じられる飾りや行事の写真が掲示されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は日当たりが良く、利用者の馴染みの机なども持ち込まれ快適に安心して生活できるよう配慮されている。		